(C)新潟日報社

国定勇人三条市長から卒業・進級証書を受け取る福島県の小中学生＝30日、三条市

「うれしい」前向きに

被災の子どもら 卒園・卒業を祝う

東日本大震災で被災し、県内で避難生活を送る子どもたちの卒園、卒業や進級を祝う会が30日、三条市と新発田市で開かれた。子どもたちは「うれしい」「友達をつくりたい」などと前向きに話した。

三条市では嵐南公民館で開かれた祝う会に福島県の小中学生約60人が出席。国定勇人市長から一人一人に、卒業・進級証書が贈られた。

三条市第一中に入学する南相馬市の小高小6年、石井剛君(12)は「いっぱい友達をつくって部活を頑張りたい」、小高中3年の門馬汐里さん(15)は「三条市の皆さんから温かな祝福を受け、うれしかった」と感謝した。

新発田市には幼稚園・保育園の卒園児14人、小学校の卒業生11人が福島県から避難している。

祝う会は同市カルチャーセンターなど2避難所で行われ、同センターでは、卒園児・卒業生15人が出席。母校の担任らから「今は新発田の人たちに甘えて、街が元気に戻ったら復興に力を貸してください」などのメッセージが読み上げられた。

相馬市から来た中村第二小の荒春菜さん(12)は「卒業式をずっとやりたいと思っていたから、とてもうれしかった。また先生やみんなに会いたい」と目を潤ませた。

三条
新発田